

HAP ワーキングセミナー 2005

女性と高脂血症（脂質コントロール介入の重要性）

2005年9月10日、HAPワーキングセミナー 2005が「女性と高脂血症（脂質コントロール介入の重要性）」をテーマに開催されました（於：東京医科歯科大学、東京都）。

テーマ	女性と高脂血症（脂質コントロール介入の重要性）
開催日時	2005年9月10日（土）13:00～17:00
会場	東京医科歯科大学 5F 症例検討室（東京都文京区）
モデレーター	大内 尉義 先生 東京大学大学院医学系研究科加齢医学（老年病学）教授 齋藤 康 先生 千葉大学大学院医学研究院細胞治療学 教授

【スピーカーおよび講演内容】

基調講演	『高脂血症の病態と治療ガイドライン』 齋藤 康 先生 千葉大学大学院医学研究院細胞治療学 教授
講演 2	『女性のライフスタイルと脂質代謝』 磯 博康 先生 大阪大学大学院医学系研究科 社会環境医学講座公衆衛生学 教授
講演 3	『エストロゲン低下に伴う女性の脂質プロファイルの変化』 若槻 明彦 先生 愛知医科大学産婦人科学 教授
講演 4	『女性における高脂血症治療の意義とその実際』 佐久間 一郎 先生 カレスサッポロ 北光記念クリニック 所長

参加者	女性と高脂血症（脂質コントロール介入の重要性）
形式	レクチャー+ラウンドテーブルディスカッション ①国際学会で行われているコンセンサスマーケティングの手法をとり入れた全員参加型のワーキングセミナーを開催。 ②女性のトータルなヘルスケアを行っていく上での問題等や課題をテーマとしてとりあげる。 ③問題等や課題に対して実地医療で役立つ対応策のコンセンサスをを得ることを目的にディスカッションを展開する。
ワーキングセミナー 2005 の開催ポイント	①参加者には事前にアンケートを送付し、「専門家に聞きたいポイント」をお伺いし、ニーズに対応する。 ②セミナーで得られたコンセンサスを実地診療にて大いに活用していただく。

【コンセンサス】

- ◆女性の高脂血症は虚血性心疾患。虚血性脳血管疾患発症の重要な危険因子である。
- ◆エストロゲン欠乏は脂質代謝に影響し、高LDL血症、高TG血症（高Small-dense LDL血症を含む）、低HDL血症を惹起する。
- ◆エストロゲン欠乏を呈する更年期以降の女性は、高脂血症を発症するリスクが高くなるので高脂血症のスクリーニングを受けるべきである。
- ◆高脂血症は、まず生活習慣の改善を図った上で、日本動脈硬化学会の提唱する動脈硬化性疾患診療ガイドラインの手順に従って治療すべきである。
- ◆女性においては、特に禁煙および間食過多と運動不足の改善による一次予防が重要である。
- ◆高コレステロール血症に対してはスタチン系薬剤、高TG血症にはフィブラート系薬剤による治療が推奨される。なお、併用両方は新潮に行う。
- ◆ホルモン補充療法（HRT）を更年期障害の治療として行っている場合には、高脂血症の改善効果も期待される。

共催：NPO 法人Healthy Aging Projects for Women (HAP)

キッセイ薬品工業株式会社 三共株式会社 ファイザー株式会社 万有製薬株式会社

協賛：アステラス製薬株式会社 科研製薬株式会社 グレラン製薬株式会社 興和株式会社

田辺製薬株式会社 持田製薬株式会社

(五十音順)